

# 実需者ニーズに応えるグラジオラス産地の維持発展

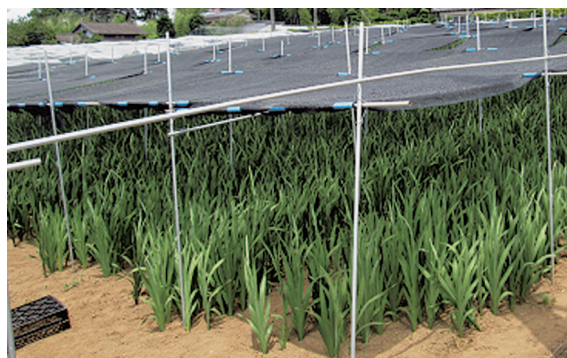
県南農林事務所経営・普及部門

土浦地域は全国でも有数のグラジオラス産地であり、主に5～11月の間、全国各地にグラジオラスを出荷しています（作付面積約23ha、年間出荷本数約400万本）。

当部門では、グラジオラスの高品質安定生産を目指して、遮光設備等の導入推進や、県オリジナル品種の普及拡大に取り組んでいます。また、グラジオラスの需要拡大を目的として、他県産地と連携した共同市場PRや産地交流会の開催などの取組も進めています。

## 高品質栽培技術導入による経営安定

夏期の穂焼けけ症状を回避するために、遮光設備の導入支援や、品質改善効果について調査・分析しました。遮光によって高品質栽培技術導入は場の秀品率は無処理の約30%から約80%に大幅に改善され、約45万→約94万円/10aの増収が確認されました。遮光の有効性は産地にも広く浸透し、平成29年度には共選農家における導入率が70%となるなど普及が進んでいます。



遮光資材を導入した圃場

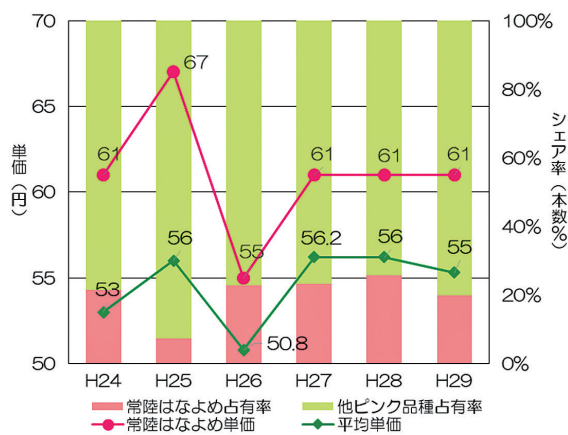


図1 「常陸はなよめ」平均単価および色別占有率の推移

## 県育成品種の普及推進

園研、生工研と連携して県育成品種の選抜、栽培試験を進めているほか、県育成品種の普及推進に取り組んでいます。県育成品種の中でも「常陸はなよめ」は人気が高く、5～11月の全出荷期間で生産されており、出荷量約20万本、平均単価61円/本とJ A土浦における全品種平均単価より約5円高く取り引きされており、産地を代表する品種となっています。

平成30年度からは新品種「常陸はつこい」の本格生産も始まるため、更なる技術向上と普及拡大に取り組んでいきます。

## 産地間連携の推進

グラジオラスの需要拡大を目指し、国内主要産地である長野県、鹿児島県と連携して産地交流会を開催しています。交流会を通じて産地の垣根を越えた協力体制を構築し、三県連携した共同市場PRや市場における通年の品種展示、新品種試作データの共有等にも取り組んでいます。平成27年の初開催以来、産地交流会は継続して開催されており、地域の枠を超えた生産者間のネットワークも生まれています。



産地交流会の様子